

「ザ・オリエンタル バンコク」とは

ザ・オリエンタル バンコクは 1876 年にタイ、バンコクのチャオプラヤ川のほとりに、ヨーロッパ人によりバンコクで初めての西洋風ホテルとして設立されました。当時はシャムと呼ばれていたタイがその門戸を欧米諸国に開いた頃で、東洋の神秘の虜となったヨーロッパ人が、ザ・オリエンタルに集まり、当時は外国船がチャオプラヤ川をホテルまで登ってきたこともあったそうです。

以来、そのエキゾチシズムとサービスで世界を魅了してきたこのホテルの顧客名簿には、ロシアのニコライ 2 世やタイ国王ラマ 5 世を始めとし、チャールズ皇太子とダイアナ妃や歴代のアメリカ大統領など各国の著名人がその名を連ねています。また、有名な「オーサーズ レジデンス」には、ジョセフ・コンラッド、サマセット・モーム、ジェームズ・ミッチェナーなどの世界的に著名作家が常宿として数々の作品を執筆した部屋が現存し、その名を冠して当時をしのばせる佇まいを残すスイートとして使われています。他にも、「ジム・トンプソン スイート」や「グレアム・グリーン スイート」などゆかりある人々や船の名前をつけたスイート、各国の王族に愛された「ロイヤル スイート」など、いずれもストーリーのある 35 室のスイートを含む 393 室と 10 のレストランがあり、現在は 1,000 人を超えるスタッフがこのホテルの運営にあたっています。

設立当初からアリアンフランセーズの劇やニジンスキーのバレエ上演など数々の文化イベントや、また現代では ASEAN 首脳会議や EEC 首脳会議なども行われ、バンコクの顔ともいえるこのホテルは、タイの発展の歴史そのものといえるでしょう。

ホテルの経営は、「王様と私」の著者の息子、ルイス・トーマス・レオノーレンスや、タイのシルク王として知られているジム・トンプソンなどの手を経て、1976 年、マンダリン オリエンタル ホテル グループの傘下となり、現在はマンダリン オリエンタル 香港とともにグループのフラッグシップホテルの一つとなっています。

バルーントラウザーと呼ばれるふくらみのある黒いパンツのエキゾチックな制服のスタッフが暖かい笑顔で迎えるホスピタリティと、タイ独特のエキゾチックな雰囲気のあるザ・オリエンタル バンコクは世界から高い評価を得ており、1981 年から 10 年間、米国の経済誌、インスティテューショナル・インベスター誌の世界のベストホテルランキングで毎年 1 位を受賞、その後もたびたび 1 位の座に輝き、その他数多くの賞を受賞しています。



「サマセット・モーム スイート」

「ザ・オリエンタル スパ」とは

1993年にチャオプラヤ川の対岸にオープンした「ザ・オリエンタル スパ」。

その建物は、タイのチーク材と随所に施された彫刻が美しい1世紀前の伝統的なタイ式家屋を復元したもので、専用ボートで対岸に渡り一歩足を踏み入ると、その静寂とアロマの香りが訪れる人々の五感を鎮めていきます。

瞑想やハーブ治療など古代タイからの伝統と、東洋と西洋の技術を融合させた独自のスパ哲学は、マンダリン・オリエンタルのスパ哲学として世界へ広がりました。現在のスパブームのパイオニア的存在でもあり、米国の Travel & Leisure 誌で世界のトップ 10 スパで 1 位を 3 回以上受賞、2006 年に Robb Report 誌にて Best Spa in Luxury Travel を受賞した他、数々の受賞歴からもその評価が伺えます。



「ザ・オリエンタル スパ」